

浜松観光ボランティアガイドの会

夏休みに自由研究やらまいか！

今年も、子供たちの夏休みの自由研究に役立ててもらおうと「夏休みに自由研究やらまいか！浜松城をもっと知ろう、調べよう！」が、7月31日から8月2日までの3日間、事業部主催により開催されました。応募した10名(男子6名、女子4名)が参加しました。午前中とはいえ30℃を越す厳しい暑さでしたが、元気よく全員が皆勤しました。

第1日目は、野外研修を浜松城公園⇒軽便鉄道奥山線跡遊歩道⇒犀ヶ崖資料館⇒浜松東照宮⇒浜松城公園のコースで行いました。ほとんどの子供たちにとって奥山線跡遊歩道を歩くことや、奥山線の歴史を聞くこと、犀ヶ崖資料館を訪れることは初経験であり、とても新鮮に且つ、興味深く感じたようです。

奥山線についての成り立ちやエピソード、そして犀ヶ崖資料館では、遠州の戦国時代・徳川家康・三方ヶ原の戦い・大念仏等についての説明や、DVD鑑賞を通して知ったことを、ノートにしっかりと書き込んでいました。

また、今回はSBSテレビの記者が浜松城公園から軽便鉄道奥山線跡遊歩道の亀山トンネルまでの間、同行して取材をしました。亀山トンネルでは、小学校の男子がインタビューを受けました。その日の昼と夜のSBSニュースで「歴史に興味があり、もっと知りたいから応募して参加した」と元気に答えている姿が放映されました。

第2日目は、野外研修を浜松城の周りとお城の中を歩いて行きました。クマゼミが大きな声で合唱していました。事業部の方による、鎧掛の松、天守閣、本丸、二の丸、野面積み、堀尾吉晴が築城したこと等の説明を、子供たちは聞き漏らすまいと真剣にノートに書き留めていました。

第3日目は、市民協働センター講座室で、井伊直虎と井伊谷の説明、自由研究のまとめ方のアドバイス、大村会長の話、質疑応答、感想発表を行いました。井伊直虎と徳川家康が、同じ時代で活躍していたことを比較年表にして、分かりやすい説明がありました。

その後、大村会長からユーモアある人間味を感じる歴史話をしてもらい、子供たちもその話に引き込まれて、少し緊張していた気持ちがほぐれたようで、質問や感想が積極的にたくさん出て盛り上がった雰囲気の中、無事終了しました。

子供たちからは①井伊直虎と井伊直政をテーマとした自由研究をやりたくなった。②浜名湖周辺のお城と、家康の侵攻についての研究をしたい。③浜松城で工夫されていることを自由研究のテーマとしたい。④浜松の歴史についてもっと知りたくなった。⑤浜松のことについてたくさん知ることが出来た。などの感想が聞かれました。

事業部の方々、3日間暑い中ご苦勞様でした。参加した子供たちは今回の学習をきっかけにして、郷土浜松を愛する心がますます大きく養われたものと思います。また、浜松城や犀ヶ崖資料館で7月、8月に当番をしていると、たくさんのお小生の親子が自由研究のために訪れます。今回のイベントのことを話しますと、是非来年は参加したいとの反応が返ってきました。来年の開催と拡大発展を期待したいと思います。

広報部 杉山浩一(西ブロック)



犀ヶ崖資料館でDVD観賞による学習



浜松城本丸跡にて学習

県民の日記念ウォークは今年も暑かった！

3日連続で猛暑日という予報が出ていた8月26日の土曜日、恒例となっている県民の日ウォークを実施しました。

標題に“記念”という文字を入れたのは、新聞に掲載の依頼をしたときに「県民の日ウォーク」では26日が県民の日と勘違いされるかもしれないので“記念”とでも入れませんか、という提案があり、そうすることにしたものです。(実際の県民の日はご存知のように8月21日です)



集合場所での受付風景

出発予定の9時に対し、一番早く来た人は8時15分頃で、まだ受付準備の途中でした。幸先良く、8時30分過ぎから続々と受付に集まり始め、当初の予定通り、10人程度集まり次第順次出発、ということで二組に出てもらったのですが、その後の参加者はぼちぼちとなってしまいました。

9時20分頃、浜松城を見に来られた千葉県からのご夫婦が「浜松城公園案内板」を見ている時に、中ブロックの小野さんが声を掛けたら参加してくれることになり、小野さん自身が案内に出発してくれました。

結局、参加者は大人31人、子供4人の合計35人でした。

無理のないコースにしようと、今年の家康の散歩道の北回りコースに決めてあり、浜松城公園の駐車場からまずは東照宮へ向かう。という私は、実は遅れて来る人に備えて、受付場所で参加者が来るのを待ちながらの留守番でした。

最後の組が出発したのが9時20分頃、それから戻ってくるまで駐車場横の木陰に居ましたが、公園のプールに泳ぎに来た親子連れや、お城を訪問する人たちなど、また、会の三役さんも顔を出してくれ退屈することなく過ごせました。

最初の組が戻ってきたのは11時少し前、その後、全部の組が予定のほぼ2時間で戻ってきました。参加者の感想は、「やはり説明してもらえると分かりやすくいいわね」「場所は分かっているもなかなか歩いてみる機会がなかったけど、今日は楽しく回らせていただきました」など、うれしいコメントが聞かれました。

今回の参加者の中には磐田、袋井、掛川からの家族連れの人たちもいました。「この行事を何で知りましたか？」という参加者への質問では、約2/3の人たちが新聞と答えてくれており、静岡新聞と中日新聞が、お出かけやイベントのコーナーに載せてくれた効果が大きかったとあらためて思った次第です。

なかには、せっかく浜松城に来たのでこれからお城に行くという人もいて、会員の橋本さんが引き続きお城まで案内してくれた、という出来事もありました。

何はともあれ、暑い中全員体調を崩すこともなく戻ってきてくれほっとするとともに、少しはお役に立てたかなと思いました。

事業部の行事としては、6月の船越小学校の同行ガイドに続いて、今回も各ブロックからの応援をいただきながら、なんとか各行事を実施することができました。

今後も手が足りないと思われるときには、事業部以外の人に応援を依頼することがあろうかと思いますが、その折には是非快く参加していただけるとありがたいです。

暑い中、皆様お疲れさまでした。



椿姫観音で説明を聞く参加者

事業部長 田村勇次(北ブロック)

中学生「浜松城ガイド活動の調査」で訪れる

7月27日、静岡大学教育学部附属浜松中学校の生徒が、調査活動のため浜松城を訪ねて来ました。

2年生の鈴木沙耶(さや)さんをリーダーとして、1年生男子5名・女子4名と、2年生女子2名の計11名での訪問です。

訪問目的は、中学在学中の3年間に「ライフタイム(L・T)」と称して、テーマを決め、調査探究活動を展開しています。その一環として、今回は「浜松城におけるボランティアガイド活動」をテーマにして、当会への取材をしたいとのことでした。

1年生の訪問目的は、観光ボランティアガイドの思いと姿勢について学び、これからの浜松の観光業の発展への課題を探究し、一人でも多くの観光客に“浜松っていいところ”と感じられるような浜松にするためにどのように取り組んでいるのか、といった内容でした。

2年生の目的は、ボランティアガイドの会員が、浜松に対する思い、どんな活動をしているのか実際に見て知りたい。浜松に来る観光客の現状を知りたい、といった内容でした。

これらの目的を踏まえて、1年生の質問項目は、

①なぜ観光ボランティアの活動を始めたのか。②浜松や浜松城のどんなところに観光としての利点があると思うか。③活動をしていて初めて知ったことや、観光客のことでビックリしたことは。

2年生の質問項目は、①浜松城など、浜松の観光地の一番の魅力は。②ボランティアガイドに入った理由や、入って良かったと思うことは。③こんな浜松になってもらいたいというような、願いや希望はありますか、といった多岐に渡った内容でした。

中学生の取材に対し、当日お城当番で西ブロックの柴田則子さん、大見美保子さんが応対をしました。質問に対し、いろいろな話や説明をしましたが、紙面スペースの都合により主だったことを記します。

まず組織の概略として、会員数124名(7月27日現在)で浜松城の他に、犀ヶ崖資料館、浜松駅、浜松まつり会館での観光客に対するガイド活動や、ガイド養成講座を開催していることの説明や、浜松城の入場者数を、近隣のお城(駿府・掛川・岡崎・名古屋城)と比較した状況説明をしました。

浜松城をはじめとして、浜松市の観光の利点としては、山・川・海・湖と、風光明媚で温暖であり、浜松人気質のやらまいか精神があふれていること。新幹線・高速道路・空港など交通アクセスが良いこと。昔から浜松は、江戸と京都の中間点(中ノ町)であり、現代においても関東圏と関西圏の中間に位置し、例えば、浜松に集合して同窓会の開催といった利便性の良さがある。反面、“浜松は通過点”といった声も聞かれますと話していました。



ガイドの説明に熱心にメモを取る生徒



浜松城石垣前にて記念撮影

「お城でガイドをしていてビックリしたことはなんですか?」と聞かれ、柴田さんは、「大河ドラマ『おんな城主 直虎』で“奥山六左衛門”を演じている田中美央(たなかみおう)さんがお城に見えたことです。身長が186cmありカッコよかったです!あと、政治家とか、家康家臣のご子孫と出会ったことなどです」と答えていました。

なお今回の調査活動の結果は、レポートをまとめた後、11月頃に校内で発表会が行われるとのことでした。

広報部 小池輝夫(東ブロック)

